

東京大学教養学部 オルガン演奏会

第139回演奏会

2018年10月3日(水) 19時00分

東京大学教養学部
900 番教室 (講堂)

October 3 7:00 pm; Auditorium No. 900,
Komaba Campus, The University of Tokyo

オルガン: パヴェル・コホート
Organ: Pavel Kohout

D・ブクステフーデ Dieterich Buxtehude (1637-1707)
手鍵盤のためのトッカータ ト長調
Toccata manualiter in G, BuxWV 165

J・G・ヴァルター Johann Gottfried Walther (1684-1748)
ヴィヴァルディの協奏曲 (オルガン編曲)
Concerto del Sign. Vivaldi, appropriato all' Organo LV 133

J・パッヘルベル Johann Pachelbel (1653-1706)
シャコンヌ ヘ短調 Ciacona ex f

V・ペトラーリ Vincenzo Petrali (1832-1889)
グローリアのための詩句 Versetti per il Gloria

H・オスヴァルト Henrique Oswald (1852-1931)
アリア イ長調 Aria in A

J・S・バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)
ブランデンブルク協奏曲 第3番
(オルガン編曲: O・カプーティ)
Brandenburgisches Konzert Nr. 3, BWV 1048
(Orgeltranskription: Omar Caputi)

第140回演奏会

2018年10月17日(水) 19時00分

東京大学教養学部
900 番教室 (講堂)

October 17 7:00 pm; Auditorium No. 900,
Komaba Campus, The University of Tokyo

オルガン: ヴィツレ・ウルポネン
Organ: Ville Urponen

N・ブルーンズ Nikolaus Bruhns (1665-1697)
前奏曲 ホ短調 Praeludium in e

J・コッコネン Joonas Kokkonen (1921-1996)
ルクス・エテルナ (永遠の光) Lux aeterna (1974)

G・ベーム Georg Böhm (1661-1733)
天にいます我らの父よ Vater unser im Himmelreich

J・G・ヴァルター Johann Gottfried Walther (1684-1748)
「イエスよ、わが喜び」によるパルティータ (10の変奏曲)
Partita (10 Variationen) über „Jesu, meine Freude“, LV 2

A・ペルト Arvo Pärt (b1935)
トリヴィウム Trivium (1976)

J・S・バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)
「我を憐れみ給え、主なる神よ」によるコラール編曲
Choralbearbeitung über „Erbarm dich mein, o Herre Gott“, BWV 721
トッカータとフーガ ニ短調
Toccata und Fuge in d, BWV 565

入場無料 (先着 500 名) 開場 18 時 40 分

演奏者プロフィール



パヴェル・コホート（オルガン）

Pavel Kohout

1976年生まれ。プラハの音楽院及び芸術アカデミー音楽学部を卒業後、アムステルダムで勉強を続け、歴史的オルガンの研究と演奏で著名な専門家ジャック・ヴァン・オールトメルセンに師事。ヨーロッパで数々のコンクールで第一位を受賞し、2000年には、東京武蔵野市で4年に一度開かれる世界で最大の国際オルガン・コンクールで、金賞とJ・S・バッハ賞を獲得。現在、ヨーロッパの新世代のオルガニストを代表する一人。研究も同時に続け、プラハ芸術アカデミーにて、南ドイツ・バロック・オルガン曲の演奏史についての論文で博士号を取得。

ソリストとしてのみならず、数々のオーケストラとも共演し、その活躍の舞台は、ヨーロッパ、ロシア、イスラエル、ニュージーランド、シリア、日本、香港、台湾、アメリカと世界各地にまたがっている。中でも、2008年、オーストラリアの二度目の訪問時にオーケストラ・ヴィクトリアと行った、アレクサンドル・ギルマンの「オルガンと管弦楽のための交響曲第1番」の演奏は、好評を博した。演奏家としてだけでなく、チェコ国営ラジオ放送とのオルガン講習会の企画など、教育・啓蒙の面でも積極的に活動。最近は無声映画の即興による伴奏にも取り組んでいる。ソリストとして発表したCDに、「プラハ・バロックの黄金時代 (Prague-L'âge d'or baroque)」、「ボヘミアの黄金精神 (Anima Aurea Bohemiac)」、「天才J・S・バッハ (Genius Johann Sebastian Bach)」などがある。



ヴィッレ・ウルポネン（オルガン）

Ville Urponen

ヴィッレ・ウルポネンはフィンランドの有名なオルガニストの一人で、シベリウス音楽院オルガン科とピアノ科を卒業後、アムステルダムのスウェーリンク音楽院でJ. v. オートメルセンに師事、1996年シベリウス音楽院ソロ科大学院、2009年には博士課程を修了。

これまでにフィンランドはじめヨーロッパの多くの国々、また日本、韓国、ロシアでも演奏。各地の主要な音楽祭でソリストとして演奏するほか、オーケストラとの共演も多く、また伴奏者としても定評がある。

ソロアルバム、また伴奏者としてのCDアルバム録音も多数、いずれも高く評価されている。

フィンランド国営放送はじめ、ヨーロッパ各国のテレビやラジオにも出演。レパートリーはバロックから現代作品まで幅は広く、フィンランドの作品、また2012年にはヘルシンキでバッハの全曲演奏も成し遂げた。

ウルポネンは演奏家であると同時に、フィンランドのオルガンに関する文献など、執筆活動も展開している。

現在はシベリウス音楽院で教鞭をとり後進の指導にあたり、またトゥルク・オルガン音楽祭の音楽監督、また2002年から2009年には北欧で最も由緒あるオルガニスト協会「オルガスム」の会長も務めた。

www.villeurponen.com

駒場キャンパスの音楽活動について

1977年に、森泰吉郎氏（森ビル株式会社初代社長）のご寄贈によって緑に囲まれた900番教室（講堂）にパイプオルガンが設置されました。以来、音楽を愛する教職員によるオルガン委員会が中心となって定期的に演奏会が開催され、学生はもとより広く市民の方々にも愛されています。

また、2006年秋には、スタインウェイのフルコンサート・グランドピアノが駒場コミュニケーションプラザ北館2階の音楽実習室に設置されました。音楽実習室では2007年よりオーディションによって選抜された学生による学生選抜

コンサートが開催されるなど、駒場キャンパスの音楽活動の軸となっています。こうした多彩な駒場の音楽活動は「駒場音楽振興基金」（東大駒場友の会）からの補助によって支えられています。皆様からのご寄付をお寄せくださいますようお願いいたします。

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学大学院総合文化研究科・教養学部
オルガン委員会 <http://organ.c.u-tokyo.ac.jp/>
ピアノ委員会 <http://piano.c.u-tokyo.ac.jp/>
Tel. 03-5454-6139（駒場博物館）
Tel. 03-3467-3536（東大駒場友の会）

